

令和5年度 事業経営評価

団体名	(株) 大阪港トランスポートシステム			所管所属名	大阪港湾局	
-----	--------------------	--	--	-------	-------	--

中期目標	中期目標期間					
	令和2年9月1日から令和7年3月31日					

財務運営の実績に関する評価(財務運営に関する事項)						
---------------------------	--	--	--	--	--	--

年度計画達成状況	指標Ⅰ	年度末流動資産額(現預金及び有価証券)					
		R2	R3	R4	R5	R6【最終】	
	目標値	—	5億円以上	5億円以上	5億円以上	5億円以上	
	実績値	14.6億円	22.5億円	37.1億円	23.8億円		
	指標Ⅱ	北港テクノポート線整備事業における工事等委託費(基本設計、軌道材料購入等)					
		R2	R3	R4	R5	R6【最終】	
	目標値	—	3.2億円以内	24.8億円以内	28.8億円以内	128.5億円以内	
	実績値	—	3.0億円	7.5億円	45.7億円		
	指標Ⅲ	トラックターミナル事業における施設平均稼働率					
		R2(参考)	R3	R4	R5	R6【最終】	
	目標値	94%以上	95%以上	95%以上	95%以上	95%以上	
	実績値	94.0%	96.7%	95.7%	98.8%		

外郭団体の自己評価	中期計画に対する進捗状況【当該事業年度】			ア	ア:「順調」 イ:「遅れあり」 ウ:「計画の見直し必要」	
	当該事業年度の指標及び目標に基づく評価並びに当該評価を踏まえた団体の総合的な評価					
	当該事業年度の指標については、目標値に対し実績値が未達となった項目があるものの最終目標に向け順調に進んでいる。 なお、指標Ⅰ(年度末流動資産)の実績値が目標値を大幅に上回っている理由は、北港テクノポート線決済用口座(市負担金及びJRTT借入金の管理口座)の期末残高(5.9億円)を計上していること及び、トラックターミナル既存施設の大規模改修工事において令和6年度早期に支出する工事費及び前払金(6.7億円)を留保していることによる。(工事費等及び決済用口座残高を除いた年度末流動資産額は11.2億円であり目標値の5億円以上を達成している)また、指標Ⅱ(工事等委託費)の実績値が目標値を大幅に上回っている理由は、令和4年度対象事業活動の実績に関する評価にて報告のとおり、効率的な工事発注を図るため材料調達等を令和5年度に繰越したことによるものであり、令和3年度から5年度の目標値合計(56.8億円)と実績値合計(56.2億円)を比較するとほぼ乖離無く当初予定の範囲内で執行できている。指標Ⅲのトラックターミナル事業における施設平均稼働率については、令和5年度に建設した新施設への既存顧客の移転が完了したことや、顧客のニーズや利用実態等を的確に合わせた大規模改修を行うなど、顧客の需要に対応することにより目標値である95%以上の稼働率を上回る水準で維持できている。					
	最終目標(中期計画)達成に向けた課題及び課題解消に向けた次年度以降の取組について					

専門家の評価	公認会計士、税理士その他の財務に関する専門的な知識及び経験を有する者の意見					
	各種指標に年度毎の差はあるものの中期計画の達成に向け順調に進んでいると評価できる。 ただし、次年度も引続き不動産事業及び鉄道事業において多額の借入・投資が必要となることから、工事部門と資金管理部門が連携し多額の工事費等を適切な時期に支払うための体制を強化するとともに、資金の適切な管理及び投資内容の精査を図っていくことが求められる。					

市の審査	中期計画に対する進捗状況【当該事業年度】			ア	ア:「順調」 イ:「遅れあり」 ウ:「計画の見直し必要」	
	「外郭団体の自己評価」に対する審査結果					

市の審査	年度末流動資産額について、工事費等留保金及び北港テクノポート線決済用口座の期末残高を除いた流動資産額11.2億円のみでも目標値を達成している。 北港テクノポート線整備事業における工事等委託費については、発注の効率化を図るため軌道工事に係る材料調達時期を見直したため、令和5年度は目標未達成となっているものの、令和4年度と令和5年度の目標値合計が53.6億円、実績値合計が53.2億円であるため、目標値から大きく乖離せず範囲内におさまっており、事業全体について団体の財務運営に支障はない。 また、トラックターミナル事業における施設平均稼働率については、既存顧客の新施設への移転が完了したことや、顧客のニーズや利用実態等に合わせた大規模改修を行うなど、顧客の需要に的確に対応することにより目標値を上回る水準で維持できていることから団体の財務運営に支障はない。 以上のことから、団体の自己評価は妥当である。					
------	---	--	--	--	--	--

市の評価	当該事業年度の指標及び目標に基づく評価並びに当該評価を踏まえた本市の総合的な評価					
	団体においては、目標値に対し実績値が未達となった項目があるものの、材料調達のコストを抑える目的のためであり、安定的で健全な財務運営が行えている。今後もトラックターミナル施設改修及び北港テクノポート線工事に多額の資金が必要となるが、目標達成に向けた取組を継続することによって、本市中期目標期間においても堅実な団体経営が行えるものと評価できる。引き続き、安定的かつ継続的な事業活動に対応できる財政基盤の確保に向け取り組まれない。					
	助言等及び講ずるよう求めた措置の内容【大阪市内外郭団体等への関与及び監理に関する条例第7条第5項】（※必要な場合のみ）					

●最終年度の前年度【中期目標の期間を通じた評価】

中期計画達成状況	指標Ⅰ	年度末流動資産額（現預金及び有価証券）				
		R2	R3	R4	R5	R6【最終】
	目標値	—	5億円以上	5億円以上	5億円以上	5億円以上
	実績値	14.6億円	22.5億円	37.1億円	23.8億円	
	指標Ⅱ	北港テクノポート線整備事業における工事等委託費（基本設計、軌道材料購入等）				
		R2	R3	R4	R5	R6【最終】
	目標値	—	3.2億円以内	24.8億円以内	28.8億円以内	128.5億円以内
	実績値	—	3.0億円	7.5億円	45.7億円	
	指標Ⅲ	トラックターミナル事業における施設平均稼働率				
		R2	R3	R4	R5	R6【最終】
	目標値	94%以上	95%以上	95%以上	95%以上	95%以上
	実績値	94.0%	96.7%	95.7%	98.8%	

外郭団体の自己評価	中期計画に対する進捗状況【中期計画期間中】	ア	ア：「順調」 イ：「遅れあり」 ウ：「計画の見直し必要」
	中期計画に定めた指標及び目標に基づく評価並びに当該評価を踏まえた団体の総合的な評価		
	指標については、目標値に対し実績値が未達となった項目があるものの最終目標に向け順調に進んでいる。最終年度となる令和6年度においては、更新後の中期計画及び年度計画で定めた目標の達成に向け確実に事業を進めていく。		

専門家の評価	公認会計士、税理士その他の財務に関する専門的な知識及び経験を有する者の意見		
	令和5年度評価のとおり目標に向け順調に進んでいることから、最終年度の目標及び中期計画の達成に向け適切に各種事業の進捗を管理していくこと。		

市の審査	中期計画に対する進捗状況【中期計画期間中】	ア	ア：「順調」 イ：「遅れあり」 ウ：「計画の見直し必要」
	「外郭団体の自己評価」に対する審査結果		
	指標Ⅰ及びⅢについては、中期計画期間中を通して目標を達成できており、団体の財務運営に支障はない。指標Ⅱにおいて、令和5年度のみ未達となっているが、その理由はスケールメリットを活用し材料調達のコストを抑えるために令和4年度の費用を上乗せしたためであり、令和3年度から5年度の目標値合計では実績値合計との乖離がほぼなく、団体の財務運営に支障はない。		

市の評価	中期計画に定めた指標及び目標に基づく評価並びに当該評価を踏まえた本市の総合的な評価					
	指標Ⅰについては、工事費等留保金及び北港テクノポート線決済用口座の期末残高を除いた流動資産額のみでも目標値を達成している。指標Ⅱについて、未達となったものの、費用抑制のための前向きなものであり、事業は順調に推移している。指標Ⅲについては、期間中一度も未達となることなく目標値を達成しており、令和5年度が最も高い実績値であったことから順調であると評価できる。					
	助言等及び講ずるよう求めた措置の内容【大阪市内外郭団体等への関与及び監理に関する条例第7条第5項】（※必要な場合のみ）					